



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2014年7月発行（第51号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー（無料）

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

目次：

- ◎巻頭メッセージ 「堅い食物」 エレミヤ
- ◎証「勝利者の歩み」E3
- ◎お知らせコーナー 「新刊本の紹介」

< 巻頭メッセージ >

「堅い食物」 by エレミヤ

本日は、「堅い食物」として、終末の啓示を理解するには堅い食物を食べることが必須であることを見ていきましょう。

< 聖書は堅い食物に関して語る >

堅い食物を求むべきとは私がいっていることではなく、聖書が明らかに語っている事柄です。以下のヘブル書の記述を見てください。

ヘブル 5:11 この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。

5:12 あなたがたは年数からすれば教師にならなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があります。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。

5:13 まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。

5:14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練さ

れた人たちの物です。

上記節の中で、ヘブル書の著者は、聖書の教えの中には、堅い食物及び柔らかい食物という2種類の教えがあることを明確に語っています。そして、クリスチャンのあるべき姿は、乳や幼子向けの教え、キリストの教えの初歩に留まることではなく、逆に堅い食物、大人向けの食物とでもいうべき、深い教えを求めるべきであることを語っているのです。

< 義の教えは堅い食物である >

さて、これらの節の中で、注目すべきはこのことばです。

「まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。」

ここには、義の教え、すなわち、神の義や、裁きに関することがらは、みな堅い食物の類いであり、その結果、乳ばかり飲んでいるもの、すなわち、キリストの教えの初歩にとどまる人々には、終末の日の神の義のあらわれや、終末の日の神の裁きに関する事柄を理解することができないことが語られているのです。

このことは、事実であり、終末の日の神の裁きや義について語る黙示録やダニエル書などは、

みな、謎やたとえが多用されており、とても一読してすぐ理解できない書なのです。7つの頭と10本の角を持つ獣、太陽を着る女など、複雑怪奇な記述が続き、難解また、判読不可能な書なのです。

これらの書は難解です。しかし、上記、「乳ばかり飲んでいような者はみな、義の教えに通じてはいません」とのことばによるなら、私たちはこれらの難解な堅い食物に挑戦するべく、薦められていることを知しましょう。そして、もしそうしないなら、終末の日における神の義や、裁きに関して理解することは難しい、ということを知しましょう。

<乳飲み子を持つ女は悲惨>

聖書は乳ばかり飲む子供すなわち、柔らかい食物のみしか受け付けず、堅い食物を食べられない信者で満ちている教会は悲惨であり、終末を乗り切れないことを暗示して以下の様にとえをもって語ります。

“マタイ 24:19 だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。”

この箇所理解として、女は教会のたとえです。身重の女と乳飲み子を持つ女の共通点は乳を必要とする乳児を持つということですが、それは、上記へブル書の柔らかい食物を必要とする信者に通じるのです。そして、そのような信者で満ちている女、教会は終末の日において悲惨であり、聖書が語る終末に関する啓示を理解することができないことがここでは語られているのです。

<堅い食物の例>

堅い食物の例はたとえばどのようなものでしょうか？へブル書の記者は堅い食物に通じており、彼は、へブル7章において、創世記の以下のメルキゼデグに関する何気ない記述から、キリストの永遠の祭司職に関して解き明かしています。

“創世記14:18 また、シャレムの王メルキゼデグはパ

ンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。

14:19 彼はアブラムを祝福して言った。「祝福を受けよ。アブラム。天と地を造られた方、いと高き神より。

14:20 あなたの手に、あなたの敵を渡されたいと高き神に、誉れあれ。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。”

この創世記のアブラムの記述は誰でも知っている、読んでいる箇所なのですが、しかし、そこに隠されている堅い食物、神が隠された教えをへブル書の記者は解き明かしました。これが、堅い食物の例です。そして、私たちが知らなければならないことは、聖書は神の知恵により、書かれた本であり、多くの堅い食物に満ちた書である、ということです。堅い食物は、メルキゼデグの記述にとどまらず、多くの聖書の箇所に含まれており、今でも隠されています。そして、我々はそれらの堅い食物をこなし、解き明かすべく神により、望まれているのです。

<70週のたとえ>

先述したように、聖書の終末に関する記述は堅い食物に満ちています。従って、堅い食物にチャレンジし、神により啓示を開いていただくことを求めない限りこれらの終末の記述を理解することは難しいことを知しましょう。そして、私たちは、少しずつでも堅い食物を求めていきましょう。

ここで、堅い食物の一例としてダニエル書のいわゆる70週に関する教えを考えてみましょう。聖書は終末に至るまでの時が70週であることを語ります。以下のとおりです。

“ダニエル 9:24 あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。”

ここで、聖書は、ダニエルの民に関して70週（原語では70の7）が定められている、と

語ります。具体的にはダニエルの時から、終末の再臨の日まで、それは、70週である、と語られているのです。そのように聖書は語るのですが、しかし、よく考えるとこれは、現実の歴史を見ると矛盾したことばです。現実を反映していないのです。考えてみましょう。70週という数字を文字通り計算するなら、 $70 \times 7 = 490$ 日、もし、1日を1年と考えると490年をさすに過ぎません。しかし、現実の歴史を考えるなら、すでにダニエルの時から、現在まで2000年以上経ており、70週などとっくに過ぎているのです。

しかし、聖書はあくまで「70週が定められている」として、終末の日までの数字は70週であることを強弁するのです。いったいこの矛盾はどう考えればよいのでしょうか？

私の考えはこうです。神はあえて、その期間を70週であると断言することにより、何か私たちに教えようとしている、ここに隠れた教え、奥義がある、そう思えるのです。70週に関する堅い食物、隠れた教えがあるなら、それは何でしょうか？そのヒントは新約聖書の以下の記述だと思われます。

マタイ 18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍(70の7)するまでと言います。」

70週に相当する(70の7)表現は新約聖書の中でも使われています。それが、この箇所なのです。同じ表現が使われているので、これらの2箇所の聖書箇所はともに関連する箇所であることがわかるのです。そして、確かにこの兄弟の罪を「七度を七十倍(70の7)するまで」許すとの表現は70週の教えに通じているように思えます。何をいっているのかというところのことです。

主はこの箇所、兄弟を許す限度に関してそれは、7度ではなく、7度を70倍(70の7)、

であると語りました。この7度を70倍(70の7)とは、ある意味では、兄弟を許し、寛容を持つ期間であると考えられます。主は兄弟の罪を無限に許す、限度なく許すとは語られませんでした。逆に限度を設け、それは、7度を70倍(70の7)であると語られました。逆にそれを超えてさらに兄弟が罪を犯し続けるなら、その罪に対して、神の裁きが臨むことが想像できるのです。

ですので、ダニエル書のいう70週とは、すなわち、神が「クリスチャンの罪を許し、耐え忍ぶ限度の期間」と理解できます。神が耐え忍ぶ限度の期間、それが70週なのです。ですので、70週を超えてさらに教会が神の前に罪を犯し続けるなら、神の怒りが教会に臨むようになる、そう理解できるのです。

神がその期間が70週である、と語られたその隠れた意図は、その期間が過ぎ、70週を経てなおかつ、背教の教会がその罪を悔い改めないなら、その時には、裁きの時に入る、そう語られているように理解できるのです。

<山や岩に向かって助けを求める>

もう一つ聖書の語る堅い食物について考えて見ましょう。黙示録は終末のその日、多くの人々が山や岩に向かって助けを求めることを語ります。以下の通りです。

黙示録 6:14 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。



ダニエルの70週

6:15 地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、

6:16 山や岩に向かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りから、私たちをかくまってくれ。」

6:17 御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

この箇所では、神の怒りをかった人々がその日、山や岩に向かって、「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りから、私たちをかくまってくれ。」と語ることが書かれています。

よく考えるなら、この箇所も不思議な箇所です。障子やふすまが倒れてくるならまだしも、山や岩が倒れかかったなら、みな圧死して死んでしまうように思います。そうしたら、助かるどころか、死んでしまうし、危険と思えるのですが、何故このように彼らは語るのでしょうか？ここにも堅い食物や隠れた謎があるように思えます。このことがらを考えてみましょう。岩に関しては聖書詩篇は以下の様に語ります。

詩篇62:2 神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。私は決して、ゆるがされない。

62:3 おまえたちは、いつまでひとりの人を襲うのか。おまえたちはこぞって打ち殺そうとしている。あたかも、傾いた城壁か、ぐらつく石垣のように。

62:4 まことに、彼らは彼を高い地位から突き落とそうとたくらんでいる。彼らは偽りを好み、口では祝福し、心の中ではのろう。セラ

この詩篇では、神こそ、「岩」であることが書かれています。そして、その岩である方に関しての非難やら、攻撃が行われることが描かれています。

「おまえたちは、いつまでひとりの人を襲うのか。おまえたちはこぞって打ち殺そうとしている。あたかも、傾

いた城壁か、ぐらつく石垣のように。」

城壁や、石垣は石や岩からなります。そして、その城壁の石や岩を攻撃し、一人の人を襲うことがここには書かれています。何を意味しているのでしょうか？一人の人とは具体的には教会の礎石であるイエス・キリストのことと理解できます。その日、背教の日、背教の教会において、イエスキリストのみことば、教え、人格に関してあらゆる攻撃が起きるようになるでしょう。

彼らは岩なる方を攻撃し、非難するのです。具体的には今アメリカで起きているように、キリストのことばは、性同一障害の人々に対して残酷である、寛容ではない、などとして、非難するようになるのです。そして、いずれ、このようなこの世的なトレンドに同調する人々はこの世の流れに乗って、聖書のキリストのことばを非難するようになるでしょう。

そして、終末の日とは、それらの岩なる方を非難する人々に対して、裁きが行われる日なのです。そして、それゆえ、神の裁きの日には、以下の様に彼らは叫ぶでしょう。

「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りから、私たちをかくまってくれ。」

しかし、彼らが自ら、岩なる方を否定したというのなら、その日、どこに救いがあるのでしょうか。さらに同じ黙示録の箇所にはこうも書かれています。

黙示録6:14 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。

ここでいう巻物とは聖書のたとえです。聖書は昔、巻物に書かれていたからです。しかし、その日、「天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなる」ことが書かれています。すなわち、巻物、聖書に対する攻撃が行われ、神のことばが教会で否定されるようになる、失せていくことが預言されているのです。そして、神のこと

ばが否定されるゆえに、岩であるキリストも教会の中で否定されるようになるのでしょうか。

＜屋上にいる人のたとえ＞

聖書は、多くの堅い食物に満ちた書です。何気ない記述の中にも堅い食物が含まれています。ですので、私たちがヘブル書の記者のいうように、真剣に堅い食物を求めるつもりがないのなら、終末のみことばの真の意味合いは理解できないのです。以下の終末に関する主のみことばにも堅い食物が含まれているように思えます。

マタイ 24:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

上記のみことばはよく考えれば不思議なみことばです。この中では、突然、屋上にいる人が登場します。彼は何故屋上にいるようになったのでしょうか？何の理由も書かれていません。全くの謎です。さらに彼は屋上から降りてはいけない、といわれているのですが、しかし、それはそれで、不便に思えます。屋上に上ったままで、一体食事はどうするのでしょうか？トイレは？寝るときはどこに寝るのでしょうか？全く謎の謎なのです。

さて、この様に不思議な箇所なのですが、ここにも堅い食物が含まれているように思われます。この謎を考えてみましょう。

屋上に相当することばが使われているのはネヘミヤ記の以下の「屋根の上」とのことばです。

ネヘミヤ8:15 これを聞くと、彼らは、自分たちのすべての町々とエルサレムに、次のようなおふれを出した。「山へ出て行き、オリーブ、野生のオリーブの木、ミルトス、なつめやし、また、枝の茂った木などの枝を取って来て、書かれているとおりに仮庵を作りなさい。」

8:16 そこで、民は出て行って、それを持って帰り、それぞれ自分の家の屋根の上や、庭の中、または、神の宮の庭や、水の門の広場、エフライムの門の広場などに、自分たちのために仮庵を作った。

この記述は仮庵の祭りに関する記述です。仮庵の祭りとはイスラエルの3大祭りの一つです。そして、この祭りもよく考えると不思議な祭りであり、それぞれ、自分の家があるのに、家の屋根の上に仮の庵を作るよう、命じられているのです。さらに神の宮があるのに、その庭に仮庵を作ることが命じられています。

何故、家があるのに、家を出てその屋上（屋根）に仮の庵を作り、そこに住まなければならないのでしょうか？私の理解では、この祭りは地下教会をさすたとえと理解できます。家を神の家、教会のたとえと理解するなら、その終末の日に教会はテサロニケ書に書かれているように、背教に陥ります。従って、その特別な状況においては、自分の家、すなわち教会を出ること、また、背教に陥った神の宮を出ることがすすめられているのです。

そして、背教の教会を出て、仮庵、すなわち、地下教会を作ることが薦められているのです。そして、「屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。」とは、その地下教会を作ったなら、そこに留まること、決して家すなわち、背教の教会に戻ってはいけないとの勧めと理解できるのです。

かくのごとく、聖書のことば、特に終末に関してのみことばは、堅い食物に満ちています。しかも、それと気付かない形で含まれているのです。しかし、私たちにとっては、これらの堅い食物にも挑戦し、終末の日における主のみことばを行うことを求めましょう。

—以上—



その日悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女である

先日、土曜日の弟子の学びの集会の中で、エレミヤ牧師が語られたメッセージを通して受けた学びから証をしたいと思います。土曜日のメッセージはHPで公開していませんが、せっかくですので、また、大事な語りかけかなあと思いましたので、この場をお借りして話をさせていただきます。

かつての私もそうでしたが、「クリスチャン」と聞くと、「一枚岩」と思っている方が多いのでは？と思います。また、「クリスチャン」と名が付けば、「無条件に天国に入れる！」と思われている方も多いと思います。本当にそうなら良いのですが、しかし聖書の所々において、そのことを覆すみことばをレムナントキリスト教会では時として神さまから示されています。そして今回もその一つを教えてくださいました。それは何か？と言うと、テーマにも掲げましたが、「勝利者」です。さらに言うなら、「勝利を得る者が天の御国を受け継ぐ」ということをみことばが語っていることを発見しました。せっかくなので、その箇所を見てみましょう。

参照 ヨハネの黙示録2:7,11,17,26,27,3:5,12,21

2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』

2:11 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。』

2:17 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。』

2:26 勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。

2:27 彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。

3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。

3:12 勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書き

しるす。

3:21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。

これらの箇所、「勝利を得る者」に、神さまからの報いや特権が与えられることを言われています。紙面の関係上、すべてを説明することはできませんので一部を見たいと思います。

2:11 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。』

まず、「第二の死」についてですが、下記みことばをご覧ください。

参照 黙示録20:13-15

20:13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのこの自分の行ないに応じてさばかれた。

20:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

「死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である」とありますように、「第二の死」とは、「火の池に投げ込まれる」ことです。話は黙示録2章11節に戻りますが、「勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない」とありますように、勝利者は「火の池」に投げ込まれません。でも、そうでない場合に、「火の池」に投げ込まれる可能性があるのです。たとえクリスチャンであっても、「勝利者」にならないと滅んでしまう可能性があるのです。こちらの箇所はそのようなことを言われているのですが、いかがでしょうか？少なくとも私自身はこのことに同調します。そうなんです、私たちは「勝利者」にならなければいけないのです。そうでないときに、入れると思っていた「天の御国」が、最悪「空約束」になってしまうのです。

ところで大分前のことですが、今から約2年前、当レムナントキリスト教会の午前の礼拝では、第一コリント人への手紙15章から学びをしていました。その時にも、「勝利」についてエレミヤ牧師がメッセージをされていたのを思い出したので、その箇所もあわせて

見てみたいと思います。

参照 I コリント人への手紙15:54-57

15:54 しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」としられている、みことばが実現します。

15:55 「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」

15:56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。

15:57 しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

ここでも「勝利」ということばが出てきます。また、その時に上記に挙げたヨハネの黙示録3章5節のみことばを引用されていました。

参照 ヨハネの黙示録3:5

3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。

この時に、「上記みことばは『復活』に関する暗示です。勝利者は復活する可能性があります。しかし、勝利しない人は復活しない可能性があります。ゆえに『復活』と『勝利』は深い関係があります。」ということメッセージされました。このことは、まさに最近学んだ「勝利を得る者」が、「復活」する、すなわち「永遠の命」を得る、ということを言われているのでは？と思います。ちなみに何に対して「勝利」をしなければいけないのか？と言うと、I コリント人への手紙15:55,56にその答えがあります。「死のとげは罪」とありますように、「罪」に勝利することです。そう、「勝利」とは、「罪」に関してのことを指すのです。ですから、しょっちゅう「罪」に対して負けてばかりいるなら、「天の御国は危ない！」ということになります。

今回、「勝利者」が「天の御国への条件」のひとつであることについて話をさせていただきましたが、ご理解いただけましたでしょうか？「初めて聞いた」「いやいや前から知っていたよ」と、反応は様々かもしれませんが、いずれにしても「無条件に天の御国に入る」ということは無いのでは？ということが、明らかではないでしょうか？「罪」にきちんと勝利して「天の御国」を相続するクリスチャンと、敗北続きで「火の池」に入れられてしまうクリスチャンとに二分することが、理解できるのではないかと思います。「条件付なんて聞い

ていない！神さまは愛の方なんだからクリスチャンは皆天国へ入れてくれるでしょう？」と思

われる方もいらっしゃるかと思いますが、聖書は「ズバリ」ではなくても、「奥義」としてこういった条件について語っているという点に関しては、きちんととらえておきたいと思います。

ちなみに「条件」と言えば、こんな話を聞いたことがあります。ある御夫婦がいて、二人の息子さんがいました。ある時、中学生の長男が「〇〇のゲーム機を買って欲しい」と言ったそうです。その時に御夫婦は相談して、息子さんにこのように言ったそうです。

「もし、今度のテストで、学年で一番になったら買ってあげる」と。すると、なんとその息子さんは学年でトップを取ったそうです。まさに親御さんの提示した条件を満たして、ゲーム機を手に入れたのです。もし、二番以降だったら、買ってもらえなかったのです。

これはこの世の話ではありますが、しかし私たちも天の父が言われる「条件」を満たすのなら、そのごほうびと言ってはなんですが、「天の御国」に入れてもらえるのです。ですから私たちも、天の父の言われること、つまり聖書のみことばに書かれている「条件」に従って歩んでいきたいと思います。反対に「条件」を満たさないとどうなるのか？と言うと・・・先ほどのお子さんがトップを取らなかったらゲーム機を買ってもらえなかったように、私たちも「天の御国」に入れない可能性がありますので、気を付けていきたいと思います。ぜひ、主が示されている「条件」に従って、御国を相続するにふさわしい歩みをしていきたいと思います。いつも大切なことを語ってくださる神さまに、栄光と誉れがありますように。



勝利者の歩み

<お知らせコーナー>



- ◆神により永続を約束され、万世一系が決して途絶えないことを約束されたダビデ王朝は、400年の歴史の後、バビロン捕囚を契機に歴史の闇に消え、その行方はようと知れない。
- ◆全能の神、聖書の神の堅い約束、「ダビデには、イスラエルの家の王座に着く人が絶えることはない。」との約束は破られ、万世一系は、果たして途絶えてしまうのか？
- ◆バビロン捕囚により、ダビデ王朝が行方不明となったのは、今から2600年ほど前のことである。
- ◆その頃、東の島国において、万世一系の王朝が誕生する。
- ◆この王朝、皇紀2600年を誇る万世一系の天皇家こそ、ダビデ王朝の正当な後継者ではないのか？
- ◆人種、言語、文化、習慣、歴史、あらゆる面において、天皇家とダビデ王朝には、類似性がある

エレミヤの新刊。「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」

定価：1500円+消費税。

ご注文の方は以下まで、連絡下さい。

警告の角笛出版： fax: 020-4623-5255, メール truth216@nifty.com